

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和7年2月1日

事業所名:大阪市更生療育センター(児童発達支援センター)

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			
	②	職員の配置数は適切であるか	○		国の基準を満たした上で、活動内容や子どもの状態に合わせて柔軟な配置に努めています。	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○			
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○		清掃は毎日実施しており、療育終了後には玩具等の消毒を日々実施しています。	
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○		議事録を供覧するなど伝達する方法を工夫しています。	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○		指定管理者施設であり、児発ガイドラインの評価項目を基準にご意見を把握し業務改善につなげています。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○		平成30年度より公表しています。	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○		指定管理者施設であり、大阪市の外部評価委員による外部評価を受け、評価結果を業務改善につなげるよう努めています。	
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○			
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で具体的な支援内容が設定されているか	○			
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○			
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		クラス単位でチーム編成し多職種の意見を集約し、立案しています。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		活動プログラムは、児童の状況や興味・関心に応じて活動や内容の変化を取り入れています。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて児童発達支援計画を作成しているか	○			
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		療育開始前後の時間を有効に活用し、職員間で気付いた点等を共有して、支援の内容や配慮点を検討しています。	
	⑲	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			
	⑳	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		担任、あるいは、個別活動の担当者が出席しています。	
	㉑	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○			
	㉒	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	/	/		
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	/	/		
	㉔	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		サポートブックの作成方法について情報提供・助言し、保育所等の職員の見学も随時受け入れ情報共有に努めています。	
	㉕	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		学校の先生の見学受け入れ情報を共有するように努めています。	
	㉖	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			
	㉗	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○		保育所等と併用されているお子さんも多く、事業所としては感染対策を行いながら、行事等で兄弟姉妹が参加・交流する行事を実施しています。	
	㉘	(地域自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○			
	㉙	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			
	㉚	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	○		子どもへの関わり方など、保護者とともに考えるように努めています。	
保護者への説明責任等	㉛	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		変更等があれば随時連絡をするように努めています。	
	㉜	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○			
	㉝	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		最低年2回の懇談日を設けています。保護者からの要望があればその都度、懇談日程を調整し実施できるよう努めています。	
	㉞	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		親子通園では、日々の療育に加えて研修会等で保護者同士が交流できる機会を設けています。単独通園では、研修会や親子通園日で交流の機会を提供しています。	
	㉟	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			
	㊱	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		必要に応じてクラスだよりの発行など、書面での情報提供を行っています。	
	㊲	個人情報に十分注意しているか	○			
	㊳	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			
	㊴	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○		コロナ禍前は毎年、秋にお祭りを開催していました。今年度より、感染症対策をした上で、秋まつりWeekとして通園児の作品展を実施しました。	
	㊵	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	④2	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			
	④3	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	○		調査票や懇談等を活用しながら、子どもの状況を確認するよう努めています。	
	④4	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		医師からの情報や検査結果をいただいています。	
	④5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		日々職員間で情報共有し再発防止に努めています。	
	④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		研修およびチェック表を利用した自己評価を行っています。	
	④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか			対象となる事例はなく、身体拘束を行った事例もありません。	

この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。